



熊本市議会議員(東区) 27年間、確実な議員活動

# ふじやま英<sup>ひで</sup>美<sup>み</sup>

ごあいさつ



現在熊本市内3ヶ所を会場に、第38回全国都市緑化くまもとフェア“くまもと花とみどりの博覧会”が開催され街を彩っています。卒業式、入学式など春の大切な行事が続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行政や医療関係者の努力が続いている中、令和4年第1回熊本市議会定例会において市民の声、地域の要望などを基に身近な問題をテーマに一般質問を行いましたのでその概略を報告させていただきます。

今後も市政発展のため努力精進致します。時節柄、皆様とともに自然災害対策や新型コロナウイルス感染拡大防止対策など万全を期してまいりたいと存じます。

## やさしい街づくりにおける安心安全な歩行空間の創出について (1)歩道の整備について

本市の歩道の状況は、経年劣化や占有者の工事による危険箇所も多く、また道路からの乗り入れ口は歩道の切り下げをしてあり、高齢者や障害をお持ちで車いす利用者の方から危険である、手押し車やベビーカーの利用者からは、通行に支障をきたしているといった意見をよく聞きます。誰もが安心して利用できる歩行空間の安全を確保するうえで、「歩道の切り下げ部」での傾斜や段差の解消など**歩道の改善**について、今後どのように取り組まれるのか、都市建設局長にお尋ねします。



傾斜がひどく歩きにくい歩道

都市建設局長  
答弁

歩道の整備は重要であり、来年度を目途に策定を目指しているバリアフリーマスタープランのまちあるき点検やワークショップ等を通じて、より具体的意見をお聞きしながら、誰もが安全で快適に移動できる歩行空間となるよう取り組んでいきたいと思っております。

## (2)自転車の通行について

平成19年6月に道路交通法が改正され、改めて自転車は原則車道の左側を走行するものと確認され、やむを得ない場合において、自転車が歩道を通行できるとあります。一部の自転車がスピードを出して走行していると聞き、ルールやマナー啓発が重要であると強く感じています。また、歩道の有効活用も必要で、巨木化した街路樹の根上りによる段差、植樹帯による視距不良、落ち葉で滑りやすいなどなど、歩行者や自転車利用者が安全に通行できる歩道が、危険が隣り合った空間となるなど課題も多いと考えられます。安全で安心して通行できるよう**歩道幅員を有効的に活用**できるような努力が必要だと思っております。都市建設局長にお尋ねします。

植樹帯で狭くなった歩道  
自転車も通ります都市建設局長  
答弁

自転車の交通ルールやマナーについては、交通安全教室などで周知を行っているところです。また、街路樹や植樹帯による課題の解決を図るため、樹種の変更や伐採により歩道幅員を確保する基準を定めており、街路樹と調和の図れた安全な歩行空間となるよう取り組んでまいります。

## (要望1)熊本高森線の電線地中化について

歩道の有効幅員を狭めるものの一つとして電柱があります。熊本高森線は熊本の重要な緊急輸送道路の一つであり道路利用者も多いため、益城町界までの未整備区間を「**熊本市無電柱化推進計画**」の整備対象路線として改めて取り上げ、早急な無電柱化の実現に向けた取り組みを要望いたします。